



第一貨物が海外進出を決めたのは国内の物流市場縮小への対応だけが理由ではない。長年国内でヤマダ電機の物流を手掛けた中国でもパートナーとして選ばれたという思いがあった」と営業本部長の安達常務。

六月の天津店オープンに合わせ、特殊段ボール

ことし五月、第一貨物(本社・山形市、武藤幸規社長)が中国・上海に合弁による現地法人を設立し、天津に物流センターを開設。商品の発送から保管、輸送まで包括的に行うロジスティクス事業をヤマダ電機向けに開始した。「物流のプロとして顧客から選ばれ続けたい(安達英雄常務)」との姿勢が同社の海外進出を後押しした。

(天田 健一郎)

## 第一貨物

製造のトライウォールなど合弁会社「上海特耐」が第一貨物の物流を手掛けた。中国でもパートナーとして選ばれたという思いがあった」と営業本部長の安達常務。

六月の天津店オープンに合わせ、特殊段ボール

# ロジ事業、中国でも

### 「選ばれ続けたいから」

津の物流センター(延べ床面積約六千平方メートル)を拠点に、瀋陽、天津の両店舗への商品配送を開始した。店頭購入商品やインターネット通販サイト「タオバオ」で販売された商品の宅配も行う。

さらに、今年度中にヤマダ電機が中国三号店を

計五店舗を中国に出店

「選ばれ続けたいから」

する計画だが、広大な中国で主要都市ごとに分散した店舗展開に物流が対応するのは容易ではない。このしだ動きに第一貨物が応えられるのは、トライウォールが持つ四四方所の工場ネットワークと施設や人や配送業者

が現在では個別に展開する。

第一貨物の中国展開



の手配などのノウハウを活用できる強みがあるからだ。

中国事業の方向は大きく三つ。第一に、メーカーからの集荷などヤマダ電機の業務に関連する物流の取り込み。第二に、現地の協力業者を通じて扱っているアパレル物流の強化。第三に、トライウォールの輸出入品の取り扱い一だ。

拡大に向けては、トライウォールや第一貨物な高品質物流の提供に努める。

(安達常務)